連載 第20回

八峰白神ジオパーク構想

ジオポイントの紹介⑱

写真1

似ている風景、チゴキ崎と出来た頃の白神山地

現在の白神山地はかって深い海底にありました。今から900～600万年前ころ海面上に顔をだしたのですが、その様子を見た人は誰もいません。おそらくチゴキ崎の先端の様子に似ていたものと思われます。現在のチゴキ崎を作っている岩石は、海底火山から噴出した溶岩や火山灰でできていています（写真2）。さらにそれらの岩石で出来ている地層に弱い部分が出来ると、そこをめがけて新しい溶岩が割り込んできています。その数は1つ2つではなく、何10本も出来ているのです。

しかし、そこには陸上に生えているどんな小さな植物も生えていません。

冒険心の強いハマハコベ

一般に植物が元気に生長するには「土」が必要です。ところがチゴキ崎にはこの「土」が全く無いのです。ということは、白神山地がはじめて海面に顔を出したときも「土」は全く無かったことでしょう。それなのに現在の白神山地はブナを中心にいろいろな植物が生え、大きな森をつくっています。一体どうしたわけでしょう？

写真1をよく見ると、ハマハコベは自分たちどうしで「かたまり」を作っています。これを「群落」といいます。群落の周りは小石が敷きつめられていてそこには他の植物はほとんど生えていません。

夏の日照りの強いある日、ハマハコベの群落で中心部の地面の温度をはかってみました。26℃ありました。今度は群落の外で地面の温度をはかって見ました。なんと52℃あるのです。

地面の温度が52℃もあると1本のハマハコベではとても耐えきれるものではありません。ハマハコベは仲間が寄り添って群落を作ることによって地面の温度が上がらないように工夫しているのです。

次第に集まりだすいろいろな植物たち

一旦ハマハコベが生え出すと根元に泥などがたまり、わずかですが植物たち待望の「土」が作り出されます。その土をたよりにオニシバなどの植物が生え、新しく土を作るので、土の量はさらに増えます。するとグミなどの低木が生えはじめ、つづいてカシワやナラ、そしてブナなどの中・高木が生い茂り、ついには大きな森が出来上がります。

ハマハコベの群落が作られているこの石だらけの海岸に、もしブナを植樹するとどうなるでしょう？まず間違いなくブナは枯れ死んでしまうでしょう。つまり、白神山地を覆っている広大な森は、ハマハコベはじめたくさんの植物が努力し土作りをしてきた結果できあがったものと考えることが出来ます。

写真2　チゴキ崎先端の岩場

八峰白神ジオパーク推進協議会
会長　工藤英美
〒018－2612
秋田県山本郡八峰町八森字ノケソリ116
旧岩館小学校内
TEL 0185－78－2427